



神話伝説の山里

たかちほごう

つうしん

「高千穂郷」通信

平成28年11月号

(宮崎県西臼杵支庁)

NO.166



世界農業遺産
高千穂郷・椎葉山地域
World Agricultural Heritage Site
Takachiho Goto & Ibaoyama Area

町制施行の節目を祝う記念式典が行われました

- 五ヶ瀬町の60周年 -

10月15日(土)・16日(日)に、五ヶ瀬町の町制60周年を記念するイベント「GO! GO! GOKASE! 2016! 感歴」が同町総合公園のGパークで行われました。Gドームで行われた式典では、原田 俊平町長が先人に対しての感謝を述べられ、全国に誇れる町づくりを町民の皆さんとともに進めていきたいと町の更なる発展を誓いました。

隣接する広場では、記念イベントが行われ、町内外から約30店舗の出店による地元グルメや、体験型ブースの設置に加えて、荒踊りなどの伝統芸能や、五ヶ瀬太鼓の演奏などがありました。同日夜には、「光と音のファンタジックショー」が行われ、臨場感のある音とレーザー光線の演出が会場を沸かせました。

- 日之影町の65周年 -

9月30日(金)に、町中央体育館にて町制施行65周年を祝う記念式典が開かれました。

佐藤 貢町長は式辞の中で、日之影町の発展に貢献してきた先人や町民、関係者に対して深い感謝を述べられ、子どもから高齢者までの全ての町民が”誇りをもてる町づくり”をしていきたいと挨拶を行いました。

式典で、日之影小学校の生徒が「町民の誓い」を朗読し、アトラクションでは、地元の大楠神楽保存会による神楽の奉納があり、65周年の節目が祝われました。

また、産業や教育の振興、福祉の充実など町の発展に貢献された町民34名の功労者の表彰式も行われました。



▽「五ヶ瀬太鼓」が威勢良く鳴り、会場を盛り上げます



▲大楠神楽保存会による神楽奉納



世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域の ロゴマークが決まりました!

10月1日(土)に、メディキット県民文化センター(宮崎市)にて高千穂郷・椎葉山地域の世界農業遺産認定シンポジウムが開催されました。

高千穂郷の伝統芸能を受け継ぐ子どもたちによるオープニングイベント「子ども神楽」で始まり、世界農業遺産の国内第一人者である武内教授や大和田順子氏の講演や、地元代表者によるパネルディスカッションを通し、今後、地域をどのように活性化していくのかを考えました。

また、会場ではロゴマークの発表もありました。神楽などの神事で用いられる「紙垂(しで)」がモチーフとなっており、焼畑や茶畑、棚田、モザイク林をイメージした色・形で構成されています。今後、ロゴマークをご愛顧いただければ幸いです!



世界農業遺産
高千穂郷・椎葉山地域
World Agricultural Heritage Site
Takachiho Goto & Ibaoyama Area



▽それぞれのパネリストから
貴重な意見が出されました!

△新しく決まったロゴマーク



『指差し確認、安全ヨシ!』労働安全衛生大会

10月7日(金)、JAゆめゆめプラザTACにおいて、西臼杵森林組合労働安全衛生大会が開催されました。

今年度は、延岡労働基準監督署や高千穂警察署の安全講話に加え、西臼杵広域行政事務組合消防本部による救急蘇生法の講習会があり、参加者が実際に蘇生法を体験するなど有意義な大会となりました。



△ 指差し唱和を行う参加者



林業における労働災害の発生率は全産業の平均の1.3倍と非常に高く、県内では、昨年3件、今年は3月に1件の死亡労働災害が発生しています。

幸い、高千穂地区では死亡事故は発生しておりませんが、尊い命が犠牲となり、貴重な人材が失われますことは、大変憂慮すべき事態であります。

安全ヨシ!の指差し確認で労働災害防止に努めましょう。



△ 救急処置研修



高千穂町で障がい者スポーツ教室が開かれました

10月7日(金)に、高千穂町武道館で障がい者スポーツ教室が開催されました。当日は131名の方が参加され、宮崎県障がい者スポーツ協会指導員の指導の下、リオパラリンピックで日本選手団が銀メダルを獲得して話題となったボッチャや、カローリング、オーバルボールの競技をしました。

参加者のみなさんは交流しながら和気あいあいと競技を楽しんでいました。



▽ ボッチャ



△ オーバルボール



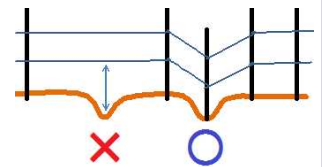
宮崎県鳥獣被害対策推進期間のお知らせ



本年度から、10月~11月を宮崎県鳥獣被害対策推進期間と定め、鳥獣被害対策の取組強化を図っています。

冬場は、本来エサが少なく、獣にとって厳しい季節となりますが、秋に播種して春に牛の飼料となるイタリアンライグラス等の牧草や、道沿いにある青々としたやわらかい土手草等は、そのままでは格好のエサです。冬場の法面等の緑化を抑えたいときは9~10月の草刈りが効果的です。

対策の一つである電気柵の適切な設置方法等について紹介します。



▲ 隙間の解消は大事

★日頃の電圧の確認 4,000V以上がないときは次の項目をチェック!

- ①電源である電池が切れているかも
- ②電線が金属(イボ竹、ハウスパイプなど)や伸びた雑草に接触しているかも
- ③アース線が切れたり、ボロボロになっているかも

★日頃の電線等の管理

- ①電線を張っているときは24時間通電が効果的です。
- ②電線と地面の隙間に注意、隙間があるときは支柱を追加しましょう。
- ③危険表示をしましょう!(表示は法律で定められています)

★電気柵周辺の管理

周辺の草刈りは漏電防止や獣の潜み場所の解消になります。



▲ 必ず危険表示を



特派員が勝手に調査！ 西臼杵のグッドポイント

...特派員とは西臼杵支庁の若手職員による広報特殊部隊である...

天孫降臨の地を巡るシリーズ 【第2回 くしふる山編】

皆さんは「天孫降臨」の神話をご存じでしょうか。高千穂は天孫降臨の地として有名です。ニニギノミコトが高天原から中つ国に降り立った場所が、“高千穂”だと伝承されています。第2回目は、伝承地のひとつとされている「くしふる山」です。昔から神山として崇められ、高千穂八十八社のひとつとして知られます。

太古の昔、天孫ニニギノミコトは高千穂のくしふる山に降り立ちました。

くしふる山は高千穂町三田井にある小高い峰です。前回の二上山と同様、古くから山そのものが信仰の対象となっていました。（社殿が建立されたのは江戸時代の元禄年代の頃です）

くしふる神社には天孫ニニギノミコトをはじめ五柱が祀られています。面白いことに、五柱の一であるタケミカツチのおこなった力比べが「相撲の元祖」と言われていることから、境内には相撲の土俵が設置されています。（このあたりの経緯は是非「オオクニ又シの国譲りの話」を調べてみてください）

ところで、皆さんはくしふる山を散策したことがありますか。くしふる神社の社殿から山中へ通じる道をいくと、天孫降臨の後に神様が高天原を遥拝したとされる「高天原遥拝所」、神武天皇4兄弟が育った場所だとされる「四皇子峯」、万葉集の歌や日向国風土記の記述が刻まれた「高千穂碑」など、所々に興味深い史跡が登場します。

くしふる山を神代川に沿ってしばらく進んでいくと荒立神社があらわれます。荒立神社はサルタヒコとアメノウズメの新居があった場所とされています。このときサルタヒコが荒木を利用して慌ただしく家を建てたため「荒建て神社」、転じて「荒立神社」と呼ばれるようになったと言われます。

くしふる神社～荒立神社間を流れる神代川は現在、西臼杵支庁土木課の河川事業により生まれ変わろうとしています。現在のコンクリート三面張りから、神話の故郷にふさわしいような石積みの川へ戻そうという試みです。



▶くしふる神社

【住所】高千穂町三田井713



▶荒立神社

【住所】高千穂町三田井宮尾野

▼神代川／天真名井



歌人北原白秋は晩年、神代川の流れを思い浮かべて「ひく水に 麻のをひてて 月まつは 清き河原の天地根元作りの家」という歌を詠みました。最後に私も一首詠んで今回の記事を締めたいと思います。（神代川工事の成功を祈願して詠んだので、多少盛ってます）

千早降（ちはやぶ）る 神代（かみよ）を越えて 悠々と 流るる水の 千穂を産（む）すかな

【意味】はるか昔、神様の時代（＝神代）からずっと流れていたとされる神代川。その神代川を越えて悠々と流れる川の水は、高千穂の地を満たして、この地の稲穂（＝千穂）を育てている。

ではまた次回お会いしましょう。



知って感心 あなたも旅人 ～ 高千穂郷の旬感コラム ～

西臼杵管内で地域を
元気にする活動に
取り組む人を紹介！



今月のコラムは、日之影町で竹細工の工芸品を製作する藤原誠さんです。同町で80年以上竹細工の工芸品を作り海外で高い評価を得ている故・廣島一夫氏から指導を受け、現在は日之影町竹工芸保存会の会長を務める藤原さんにお話を伺いました！



西臼杵は、農業が盛んな地域です。管内では「かるい（竹で編んだ籠）」が背中に荷物を担ぐための道具として農作業に利用されています。日々の暮らしを支える生活の道具として、竹細工は愛用されてきました。

幼い頃から父親が竹細工を作る姿を見ながら育ったという藤原誠さんは、西臼杵に伝わる“かるい”を今後も地域に残しておく必要性を感じ、自らの手で作ることができるようになりたいと勉強会に足を運んだのがきっかけでした。



◁藤原さんの精巧な作品

△恩師の廣島氏から受け継いだ作品を大切に抱える藤原さん。竹は染料ではなく、火であぶって色をつけます。

その勉強会で出会ったのが、日之影が誇る竹細工名人の廣島一夫さんでした。廣島さんは、大英博物館にも竹細工の作品が収蔵されるほどの名工で、直接指導を受けた藤原さんは、恩師に対する尊敬の念を持ち続けています。基礎の技術を大切にしながら、工夫やアレンジも忘れない藤原さん。風車を最初に作った時、花びらは厚紙を使いました。面白みに欠けると感じた藤原さんは、竹の性質を活かし試行を重ね、花びらを竹で作りあげました。伝統工芸を受け継ぎながら、竹細工への遊び心を全力で作品にぶつける姿に魅力を感じます。



△実演コーナーの様子

西臼杵郡の「かるい」の特徴は、編み目が縦になっていること。高い技術が日之影の伝統文化を支えます。

地元の中学校などで、竹工芸の体験学習などにも協力されており、教育の現場でも活躍されています。



10月に県庁前の楠並木通りで行われた”日之影町まるごと生産者直売市”では、「竹細工の実演コーナー」が設けられ、藤原さんが丹精込めて製作した作品を展示・販売しました。

藤原さんに興味津々で質問するお客さんの姿も多く、質問に対して柔らかな表情で答える姿がとても印象的でした。

*高千穂郷通信についてのご感想や、掲載してほしいイベント・取組みなどがありましたら下記までご連絡ください。

◎お問い合わせ先

宮崎県 西臼杵支庁 総務課 TEL 0982(72)2181 FAX 0982(72)3760

西臼杵支庁

検索



Facebookページ西臼杵支庁「ウキウキ！好き好き！ニシウスキ！」更新中！

